

編集長の爪

▼ラジョN杯入着馬の成績

16年コスモバルク	①着
17年アドマイヤジャパン	②着
18年サクラメグワンダー	③着
19年アドマイヤムーン	④着
20年ヴィクトリアン	⑤着
21年ロジューニヴァース	⑥着
22年ヴィクトワールピサ	⑦着
23年アドマイヤテンクウ	⑧着
24年ウインバリアシオン	⑨着
25年アドムスビーク	⑩着
26年トリップ	⑪着
27年エビファネイア	⑫着
28年パッドボイ	⑬着
29年キズナ	⑭着
30年キズナ	⑮着

※着順は上がラジョN、下が弥生賞

▼3勝以上馬の成績(弥生賞)

16年コスモバルク	①着
17年メイショウボーラー	②着
18年アドマイヤムーン	③着
19年サクラメグワンダー	④着
20年アドマイヤムーン	⑤着
21年ロジューニヴァース	⑥着
22年アドマイヤテンクウ	⑦着
23年ウインバリアシオン	⑧着
24年アドムスビーク	⑨着
25年エビファネイア	⑩着
26年パッドボイ	⑪着
27年キズナ	⑫着
28年キズナ	⑬着

※(内)は人気

▼京成杯入着馬の成績

16年フォーカルポイント	①着
17年アドマイヤジャパン	②着
18年メイショウレガロ	③着
19年アドマイヤムーン	④着
20年ベンチャーライン	⑤着
21年アローロスター	⑥着
22年アドマイヤテンクウ	⑦着
23年アースステップ	⑧着
24年アローロスター	⑨着
25年クロスボウ	⑩着
26年クロスボウ	⑪着
27年クロスボウ	⑫着

※着順は上が京成杯、下が弥生賞

競馬人情 吉川良

コスモバルクとかディープインパクトとかアドマイヤムーンとか、ロジューニヴァースとかヴィクトワールピサとか弥生賞を勝った馬の名前を言ってみると、地味に暮らしているおれなんかなんともなしに、「ドウもスママセン」とおじぎをしちゃうよ。

おまけに今年なんか、名牝トウザヴィクトリーの息子や名牝ステインガールの息子が弥生賞のゲートに入るとなると、意味もなしに、「おれの出る幕じゃねえな」なんぞと思ってしまう。

トウザヴィクトリーといえばエリザベス女王杯でのローズバ



大川浩史

藤本貴久の「囀る」

中山8R ユキノユダ

先々週の東京パドックでの光景。2羽の鳩がまったく動じることなく馬と並んで周回。リズムに乗った首の使い方は抜群。素晴らしい羽体？にもう釘付け。「仕上げ途中も見せ場。叩かれ今回が勝負」



下とのハナ差のレースは忘れられない。それにドバイワールドCの2着という、まぶしいような思いもあるなあ。

その息子の名にワールドがついてトウザワールドだ。黄菊賞や若駒Sを見て、かなりの強者だとおれにもわかる。

桜花賞やオークスは勝てなかったけど、阪神3歳牝馬S(今は阪神JF)を勝ったステインガールも、友だちの何人が40分の1口馬主だったので、重賞を勝つと祝い酒をのんだ。

母馬としてのステインガールにとっては、キングズオブザサンは待望の自慢の息子だね。

それにワンアンドオンリーには、橋口厩舎のダービーへの悲願がこめられる。

馬単⑩-③、⑩-⑥、⑩-⑪の3点勝負。

今の中山芝ならネオ土曜版にも書いたが、今開催も(1回中山に続いて)中山の芝はかなりのパワー仕様。ディープインパクトを筆頭とする切れ味血統を軽視して、1回中山で活躍したチカステナングなどジリッぽい血統を狙うのが基本方針となるが、弥生賞の人気馬(トウザワールド、ワンアンドオンリー、キングズオブザサン

▼若駒Sを勝った

10トウザワールド

8エイシエンルヴィン

▼京成杯②③着の

▼男馬の第一冠「皐月賞」に出走する馬の大半は、今週の弥生賞か、2週後のスプリングS、あるいは若葉Sを使うことがほとんど。

過去10年の皐月賞で①②③着に快走した30頭のうち、「26頭」までが、直前に選んだレースはこの3つに集中する。

弥生：12頭。スプS：8頭。若葉S：6頭

▼では、その前の重要レースはなにかとなると、これも決まっています、近年は、ラジョN I K K E I杯をトップに、年が明けての「京成杯、若駒S、共同通信杯、きさらぎ賞」の5レースへ出走した馬が駒を進めてくるのが、路線の王道になっている。

関西馬強しの時代が続くから「ラジョN I K K E I杯」きさらぎ賞、若駒Sが重要なほうというまでもない

▼今年の弥生賞には、ラジョN杯の①②着馬

11ワンアンドオンリー

7アズマシャトル

10トウザワールド

8エイシエンルヴィン

▼京成杯②③着の

▼父シャマールは仏の春の2冠を制したヨーロッパ型。その祖母ヘレンストリートは愛オニクス馬。03年の2冠馬ネオユニヴァースの母のいとこ

▼エイシエンルヴィンの母方はエイシエンフラッシュと同様にドイツ色が濃く、母の父モンズーは昨年Kジョージ&QエリザベスSを独走したノヴェリスト(輸入馬)の父である

▼母ライナは、ドイツを代表する種牡馬ズルムーの(3x4)であり、一族の代表馬は凱旋門賞独走デインドリームの父ロミタス(父ニジンスキー)。

エイシエンルヴィンはおそらく、今季の中山向きの底力とパUNCHを秘めている。今度は体を絞ってきた

(相木)